

京丹後市10年の歩み

和 のちから

多彩な和が
つながり築く
未来の京丹後市

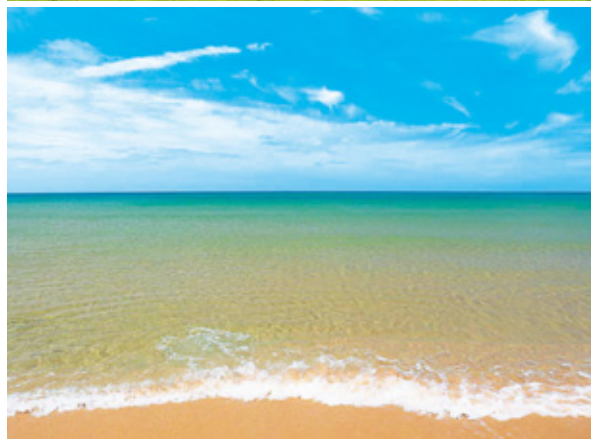


歴史・沿革

京丹後市では、リアス式海岸部の良好な湾や入江を通して、古代から大陸・朝鮮半島と活発な交流が行われてきました。

市内からは約2000年前の中国貨幣や日本最古の紀年銘鏡、日本海側最大の前方後円墳などの遺物・遺跡が多く発見されていることから、独自の強大な経済文化圏を形成した丹後王国の繁栄がうかがわれます。

近世には回船業や丹後ちりめん



の生産がまちの産業を支え、今日では、機械金属工業・観光産業もまちの発展を担っています。

京丹後市は、平成16年4月、峰山・大宮・網野・丹後・弥栄・久美浜町が合併し、市制を施行しました。

位置・地勢

京都府北部、丹後半島に位置し、東西約35キロメートル、南北約30キロメートルの広がりを持っています。

沿岸部は山陰海岸国立公園、丹



後天橋立大江山国立公園に指定され、内陸部には標高4000〜6000メートルの山々が連なります。

京丹後市の概要

平成16年4月1日、6町がひとつになり誕生した京丹後市。

「丹後王国」や先人たちが残してくれた自然環境・遺産や歴史文化、新しい時代に求められる魅力的な価値・恵みを有するまちです。

京丹後誕生までの軌跡

網野 ———— あみの

明治の大合併

明治22年の町村制施行当時は、網野村・浅茂川村・島津村・郷村・木津村・浜詰村の6村が成立。明治33年の網野村の町制施行を経て、明治37年4月1日に、網野町と浅茂川村が合併し網野町が設置。

昭和の大合併

昭和25年4月1日、網野町・島津村・郷村・木津村・浜詰村の1町4村が合併し、新しく網野町が誕生。



昭和30年代
小浜海水浴場

大宮 ———— おおみや

明治の大合併

明治22年の町村制施行当時は、長善村・大野村・常吉村・三重村・周枳村・河辺村・五十河村の7村が成立。やがて明治25年に、大野村が奥大野村と口大野村に分村。

昭和の大合併

昭和26年4月1日、中郡南部6村(口大野村・奥大野村・常吉村・三重村・周枳村・河辺村)の合併により、大宮町が誕生。さらに、昭和31年には、五十河村・長善村・字善王寺を編入合併。



昭和34年
府警音楽隊

峰山 ———— みねやま

明治の大合併

明治22年の町村制施行によって、吉原・不瀬・上・織元などの15町が合併し、峰山町が誕生。また、吉原村・五箇村・長善村・新山村・丹波村の5村が設置。

昭和の大合併

昭和30年1月1日、峰山町・吉原村・五箇村・新山村・丹波村の合併で新しく峰山町が成立。また、翌31年9月30日には長善村字長岡を編入合併。当時は役場のほかに、五箇出張所を設置。



昭和30年代
金刀比羅商店街

久美浜 ———— くみはま

明治の大合併

明治22年の町村制施行によって、久美浜村・久美谷村・川上村・海部村・上佐濃村・下佐濃村・田村・神野村・湊村の9村が設置。また、明治27年の町制施行で、久美浜村は久美浜町と改称。

昭和の大合併

昭和30年1月1日、久美浜町・川上村・海部村・田村・神野村・湊村の1町5村が合併し、昭和33年5月3日に佐濃村を編入して、新しく久美浜町が誕生。



昭和30年代
湊大橋

弥栄 ———— やさか

明治の大合併

明治22年の町村制施行によって、吉野村・溝谷村・深田村・鳥取村・野間村の5村が設置。

昭和の大合併

昭和8年に野間村を除く4村が合併して弥栄村に。やがて昭和30年3月1日、弥栄村と野間村との合併により弥栄町が誕生。



昭和30年代
和田野保育所

丹後 ———— たんご

明治の大合併

明治22年の町村制施行によって、間人村・徳光村・八木村・竹野村・上宇川村・下宇川村の6村が設置。大正10年に間人村が町制施行した後、大正14年に八木村と徳光村が合併し、豊栄村が設置。

昭和の大合併

昭和30年2月1日に、間人町・豊栄村・竹野村・上宇川村・下宇川村の1町4村が合併し、丹後町が発足。



昭和37年
丹後半島一周
観光バス路線開通

京丹後市Data

■位置

北緯 35 37' 15"
東経 135 03' 49"
東西 約35km
南北 約30km

■面積

総面積 501.84km²
峰山 67.45km²
大宮 68.93km²
網野 75.07km²
丹後 64.96km²
弥栄 80.38km²
久美浜 145.05km²

■市の人口・世帯数

総人口 58,793人
男 28,299人 女 30,494人
世帯数 22,639世帯
※平成26年4月末現在
(住民基本台帳による)

■市の木・市の花

市の木 プナ
市の花 トウテイラン
※平成21年制定

峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町
合併協定調印式



【10年の道のり】

平成

16-17

年度

京丹後市誕生 新たな市制が 始まる

1 京丹後市誕生

「京丹後市」の門出を祝い、4月1日、市役所前で大勢の市民や職員とともに開市式を執り行いました。式では、大勢の市民や職員を前に、京丹後市長職務執行者である増田桂一前峰山町長が開市を宣言。続いて市役所壁面に取り付けた「市章」の除幕、テープカットを行いました。最後にくす玉が割られると、大きな拍手が沸き起こり、輝かしい歴史のページを開きました。各庁舎においても、新しい看板の除幕を行い、地域を挙げて市制施行を祝福しました。

4 星空の街・あおぞらの街

5 観光立市をめざして タウンミーティング

7 きものサミット

など各分野で全国大会 を実施

大気環境の保全と郷土の環境を活かした地域おこしを目的に、平成16年8月、「星空の街・あおぞらの街全国大会」を実施。また9月には、内閣と国民との対話を促進することをねらいとした、「タウンミーティング」を開催し、「観光立市をめざして」をテーマに来場者と意見を交わ



平成16年度

- 4月・京丹後市誕生 **1**
- 京丹後市消防団発足
- 市立弥栄病院、市立久美浜病院設置
- 京丹後市体育協会発足 **2**
- 京丹後市社会福祉協議会発足 **3**
- 5月・中山泰市長就任(初代)
- 6月・第1次京丹後市議会(定数30人)が発足
- 8月・京丹後市合併記念式典挙行
- 星空の街・あおぞらの街全国大会開催 **4**
- 9月・観光立市をめざして「タウンミーティング」京丹後開催 **5**
- 行財政改革推進本部設置
- 10月・社団法人京丹後市シルバー人材センター発足 **6**
- 市立弥栄病院、大西慧新院長就任
- 全国の市で初、児童医療費の助成範囲を小学校卒業時まで拡大
- 地域振興協議会発足
- アテネオリンピック・パラリンピックのメダリストで府立網野高等学校出身の井上謙二さん、伊調千春さん、寒川進さんの功績を讃え、新市誕生初の「京丹後市スポーツ特別栄誉賞」贈呈
- 行財政改革推進委員会発足
- 台風23号襲来し、3人の方がお亡くなりになる甚大な被害・被災
- 11月・京丹後市防犯・暴力追放推進協議会設立
- エコドライブ普及促進モデル事業開始
- 12月・京丹後市行財政改革大綱策定
- 京丹後市健康と福祉のまちづくり審議会発足
- 京丹後市医療対策審議会設置
- 京丹後市明るい選挙推進協議会発足
- 1月・史跡整備検討委員会設置
- 2月・廃棄物減量等推進審議会設置
- 美しいふるさとづくり審議会設置
- 3月・京丹後市次世代育成支援対策行動計画策定
- 星空体験学習室「童夢(ドーム)」完成

しました。さらに、平成17年10月には、和装美のすばらしさを全国に発信するとともに、和装産業の振興を図る「きものサミット in 京丹後」を開催するなど、各分野での全国大会を京丹後市で実施しました。

藤原菊男さん(丹後町出身)の寄贈により星空体験学習室「童夢(ドーム)」完成



2 市体育協会発足

3 市社会福祉協議会発足

6 シルバー人材センター発足

体育・スポーツの普及発展を図る体育協会、地域に根差して福祉の推進を図る社会福祉協議会、高齢者の就業機会を開発・提供するシルバー人材センターなど、多くの団体が新市誕生にあわせて統合・再編を行い、新たなスタートを切りました。

9 京都工芸繊維大学と包括連携協定

市と国立大学法人京都工芸繊維大学は、相互の人的・物的・知的資源の交流・連携を図り、市の活性化をめざす「包括協定」を締結。「大学による小・中学校、高等学校への出前講座」「市民への公開講座」「企業への技術開発指導」など、連携事業を進めていくことになりました。

8 バイオガス発電施設が本格稼働

平成21年10月には京丹後市エコエネルギーセンター稼働

世界的な注目を浴びる日本での、新エネルギーを組み合わせたエネルギー供給の実証研究「京都エコエネルギープロジェクト」が、京丹後市を舞台に本格的にスタート。電力供給の制御センターとバイオガス発電施設の機能を備えている京都エコエネルギー研究センターでは、新エネルギー供給の実証検証と併せて、バイオマスによる循環型社会づくりの検討を行うことになりました。プロジェクトは平成20年3月に終了。平

成21年10月からは、「京丹後市エコエネルギーセンター」として指定管理をスタートしました。



10 「原子力発電所設置のための事前調査」の撤回申し入れと回答

旧久美浜町時代に関西電力株式会社から原子力発電所設置のための「事前調査の申し入れ」を昭和50年5月に受けてから、地元地区をはじめとして数多くの論争や葛藤等が長年にわたってせめぎ合い、重ねられてきました。そのような中、市では平成17年1月から地元組織の「蒲井・旭電源問題及び活性化対策協議会」と協議を重ね、「蒲井・旭地域振興計画(案)」を策定。地域とともに原発に頼らないまちづくりを進めるため、関西電力株式会社に対して、「事前調査の申し入れ」の撤回をお願いし、同年3月に計画を撤回する旨の回答を受けました。

平成17年度

- 4月・市民相談室開設
- 6月・京丹後文化のまちづくり実行委員会発足
- 7月・地域再生法施行後初、地域再生計画として国からの認定
- 公共下水道・浄化槽の拡充・整備プロジェクト
- 京丹後市達人養成・鉄人育成プロジェクト
- 峰山球場に旧峰山町名誉町民(18年3月より)名誉市民・韓昌祐さんの顕彰碑を建立
- 9月・京丹後市総合体育大会初開催
- 10月・きものサミット in 京丹後初開催
- 11月・市立久美浜病院、院外処方開始
- バイオガス発電施設が本格稼働
- 2005世界レスリング選手権金メダリストの正田純子さんに「京丹後市スポーツ特別栄誉賞」贈呈
- 静の杜整備事業完了
- 12月・近畿で初、京丹後市地域交通会議設立
- 市の活性化をめざし、国立大学法人京都工芸繊維大学と包括連携協定締結
- 京丹後市役所と郵便局との共創のまちづくり推進協議会設置
- 2月・京丹後市地域防災計画策定
- 蒲井・旭地域振興計画(案)策定
- 関西電力株式会社に対し「発電所設置のための調査方お願いについて」の撤回申し入れ
- 京丹後市地球温暖化対策実行計画策定
- 京都ファイアーバースと連携・協力に関する包括協力協定を締結
- 3月・関西電力株式会社から、京丹後市の「久美浜原子力発電所計画」の撤回に関する申し入れに対し、同計画を撤回する回答
- 「子ども安心パトロール車」(愛称:にこにこカー)の取り組み開始
- 第一次京丹後市総合計画策定
- 京丹後市地域情報化計画(京丹後ひかり王国)策定

【10年の道のり】

平成
18-19
年度

まちづくりの 基盤や計画 づくりが進む

① 上限200円バス 実証運行開始、19年 には市内全域に拡大

低額、便利で魅力的な公共交通網をめざし、平成18年10月、「上限200円バス」の実証運行を始めました。平成19年10月、多くの利用者の後押しを受け、適用

エリアを市内全域に拡大するとともに、市営バス路線でも上限200円バスの実証運行を始めました。



② 環境大臣賞受賞

⑦ 琴引浜天然記念物認定

市の環境循環都市をめざした取り組みが評価され、平成19年1月、府内で初めて「循環・共生・参加まちづくり表彰（環境大臣表彰）」を受けました。

また、最良・最大級の「鳴砂の浜」として知られる『琴引浜』が平成19年7月、国指定天然記念物および名勝となりました。景観や文化財としての価値、また環境保全の取り組みなども評価され、鳴砂の浜としての指定は、全国初の快挙となりました。

③ 久美浜病院で通所 リハビリステーション 開設

⑤ 弥栄病院に助産師外来 マザーズルーム開設

⑧ 医療費の助成が 中学校卒業まで拡充

⑨ 病院で院内ポラン ティアの募集を開始

市では、乳幼児・小学生が医療機関で受診し支払った費用を、申請により助成していましたが、平成19年から対象を中学生まで拡充しました。平成19年1月には久美浜病院で



平成18年度

- 7月・京丹後市人権啓発推進協議会設立
- ・大宮町善王寺・峰山町長岡地区が、環境省の「アヘサンショウウオ生息地保護区」に指定
- ・豪雨により丹後町間人地域で2名の方がお亡くなりになる甚大な被害・被災
- 8月・久美浜高校野球部4人が甲子園で始球式
- ・蒲井・旭地域振興計画策定
- 9月・京丹後市消防本部「救マーク」制度新設
- ・京都工芸繊維大学「京丹後キャンパス」開設
- ・43施設で指定管理者制度導入
- ・京丹後市水酸化計画策定
- ・京丹後市海業振興協議会発足
- 10月・京丹後市保育所再編等推進計画策定
- ・上限200円バス実証運行開始①
- ・近畿コカコーラボトリング株式会社と「災害時における飲料の提供協力に関する協定」締結
- ・中国安徽省亳州市と友好都市提携締結
- ・「丹後ファッションウィーク」初開催
- ・2006世界レスリング選手権金メダリストの正田純子さんと伊調千春さんに「京丹後市スポーツ特別栄誉賞」贈呈
- ・京丹後市医療改革改善推進会議設置
- 11月・京丹後市自殺ゼロ実現推進協議会設立
- ・特産品ショップ「あるでえ丹後」オープン
- ・京丹後市総合サービス株式会社設立
- ・京丹後市ボランティア連絡会発足
- 1月・「循環・共生・参加まちづくり表彰」環境大臣賞②受賞
- ・市立久美浜病院で「通所リハビリテーション」開設③
- 2月・京丹後市国民保護計画策定
- 3月・錦織米子さん、韓昌祐さん、森岡行直さん、谷口謙さんを名誉市民に
- ・京丹後市防災マップ作成

通所リハビリテーションが開設され、利用者が能力に応じて日常生活を送られるよう、看護師や理学療法士、作業療法士などの専門スタッフが心身機能の維持回復を支援する取り組みが始まりました。また5月には弥栄病院で助産師外来「マザーズルーム」が開設。妊娠・出産にまつわる不安や疑問に助産師が応え、妊産婦をケアする取り組みが始まりました。さらに、9月からは両病院で院内ボランティアの募集が開始され、市民ボランティアによる院内の患者サービスがスタートしました。

4 京丹後市商工会発足

6 特産品ショッパ 「ホツと丹後」オープン

商工業のさらなる発展と地域振興に寄与する商工会をめざし、市内の6商工会が合併し、「京丹後市商工会」として新たな一歩を踏み出しました。また、財団法人丹後地域地場産業振興センターは平成19年7月、京都市の堀川商店街に「特産品ショッパ ホツと丹後」を開設。丹後地場産品を販売するとともに、丹後の観光PRを行う拠点を設置しました。

10 企業立地促進法「京丹後市の基本計画」に

近畿で初めて国が同意

11 バイオマスタウン 構想、国から認定

京丹後市の産業活性化に向けて市が作成した企業立地促進法に基づく「基本計画」が、近畿で初めて国の同意を受け、これにより市全域で設備投資減税などの優遇措置が適用されることとなりました。5カ年計画で、産官学連携や支援拠点整備を進める中で、既存の産業集積を生かした企業立地をめざしました。

また、市が策定を進めてきた「京丹後市バイオマスタウン構想」が、国の「バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議」において、認定・公表されました。今後、国の各制度などを利用し、新たな雇用と地域経済活性化への道につながるため、民間事業者などの施設整備の支援を検討していくことになりました。

12 全国の中から「頑張る市町村20選」に選定

京丹後市の企業立地に向けての取り組みが、積極的・先進的であるとして、経済産業省の「企業立地に頑張る市町村20選」のひとつに全国の中から選定されました。主要取引先である京阪神地域から片道2時間半以上かかるといった「立地条件の不利」を克服するための「場づくり・人づくり・機能づくり」の取り組みなど、企業立地に向けての環境づくりが評価されたものです。

13 丹後産コシヒカリ 西日本で唯一「特A」

14 京丹後製茶株式会社 設立

日本穀物検定協会が実施する平成19年産米の「食味ランキング」で、全国120を超える米産地の中から、丹後コシヒカリが西日本で唯一、最高評価の「特A」ランクを獲得しました。また市では、平成20年3月、新たな基幹作物の一つとして茶業の普及を進めるため、茶の摘採から乾燥、出荷までを行う「京丹後製茶株式会社」を、市内の茶生産者と共同出資により設立しました。

平成19年度

- 4月・京丹後市商工会発足 **4**
- 多重債務相談・支援室開設
- 5月・市立弥栄病院に助産師外来「マザーズルーム」開設 **5**
- 6月・京丹後市地域経済再生・支援緊急対策本部設置
- 7月・特産品ショッパ「ホツと丹後」京都市内にオープン **6**
- 「赤坂今井墳墓」が国指定史跡、鳴砂の浜「琴引浜」が全国で初めて国指定天然記念物および名勝に **7**
- (社)日本青年会議所近畿地区会員大会を京丹後市で開催
- 8月・「起業アイデアコンペティション」初開催
- 丹後天橋立大江山国定公園誕生
- 9月・京丹後ふるさと応援団結成
- 医療費の助成対象を中学校卒業までに拡大 **8**
- 市立病院で「院内ボランティア」募集開始 **9**
- 10月・上限200円バス市内全域に拡大
- 企業立地促進法「京丹後市の基本計画」に国が同意 **10**
- 11月・京丹後市バイオマスタウン構想、国から認定 **11**
- 住民参加型市場公募債「京丹後、まち、未来債」発行
- 若狭・丹後・但馬中日本海交流会議発足
- 12月・京丹後市ファミリー・サポート・センター創設
- 府内初、京丹後市まちづくり基本条例制定
- 府内初、京丹後市議会基本条例制定
- 京丹後市が経済産業省「企業立地に頑張る市町村20選」に選定 **12**
- 1月・木津川市と友好都市提携に関する盟約締結
- 2月・支え合いの地域づくり推進委員会発足
- 丹後産コシヒカリ西日本で唯一「特A」 **13**
- 京丹後市災害時応援協定ネットワーク会議発足
- 3月・京丹後製茶株式会社設立 **14**
- 京丹後市危機管理指針策定
- 京丹後市スポーツ振興計画策定
- 京丹後市国際交流協会設立



市制5周年を迎え、 市民協働の 芽を育む

名誉市民となった野村克也さん
(市制5周年式典)



- 1 京丹後市観光協会発足
- 4 「京都府丹後観光圏」整備
実施計画、国が認定
- 8 京丹後市観光立市
推進条例施行
- 11 京丹後市観光振興計画
策定

平成20年4月、市内の6つの観光協会が合併し「京丹後市観光協会」が設立されました。10月には「京都府丹後観光圏」(舞鶴市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)の整備実施計画が国から認定。丹後の四季型滞在型観光の推進に向けて大きな弾み

となりました。さらに、平成21年4月には京丹後市観光立市条例施行、6月には市観光振興計画が策定され、自然文化や産業を生かした「ほんまもん体験」など、地域の豊富な観光資源をいっそう有効に活用しながら、観光をまちづくりの主要産業の一つとして発展させる基盤が整いました。

- 2 府内初、まちづくり
基本条例施行
- 3 府内初、議会基本
条例施行

市民起点のまちづくりを進めていくうえでの基本的な考え方や大切に

したいことを規定する「まちづくり基本条例」を平成20年4月1日に施行しました。まちづくりの基本理念や市民の役割、市議会、市長・市職員の責務などが規定されています。また、同日には「京丹後市議会基本条例」が施行。どちらも京都府で初めてとなる条例の制定となりました。

- 5 丹後・知恵のものが
つくりパークオープン
- 6 緊急経済対策に着手

京都府北部の人材育成と産業の支援拠点となる「丹後・知恵のものがつくりパーク」が平成20年10月、

平成20年度

- 4月・市立弥栄病院、安原正博新院長就任
- 「京丹後市観光協会」発足 **1**
- 中山泰市長再選
- 府内初、京丹後市まちづくり基本条例施行 **2**
- 府内初、京丹後市議会基本条例施行 **3**
- 行政で全国初の「京丹後市知的資産経営報告書」作成
- 第2次京丹後市議会(定数24人)が発足
- 府内初「ふるさと共援組織」発足
- 「産業・雇用総合支援推進本部」新設
- 6次産業創造プロジェクト、職員全員営業マン活動開始
- 8月・「過疎・高齢化集落等連絡会」設立
- 10月・「京都府丹後観光圏」整備実施計画、国が認定 **4**
- ツリーハウス完成
- 「全国鳴砂サミット in 京丹後」開催
- 「丹後・知恵のものがつくりパーク」オープン **5**
- 11月・「百歳バンザイ!! 第一回健康大長寿のさとづくり全国交流会」開催
- 京丹後市社会福祉大会初開催
- 京丹後市体験型観光推進協議会発足
- 12月・山陰海岸ジオパークが日本ジオパークに認定
- 緊急経済対策に着手、全国最大規模の雇用調整支援など産業・雇用総合支援緊急対策実施 **6**
- 2月・「学校支援ボランティア」の取り組み開始
- 「子ども議会」初開催
- 丹後産コシヒカリ2年連続7回目の特A獲得
- 3月・「自主防災組織ネットワーク会議」発足
- 京丹後市立病院改革プラン策定
- 京丹後市ハザードマップ初めて作成
- 京都府初、議員提案による京丹後市観光立市推進条例制定
- 「犯罪のない安全で安心なまちづくり条例制定 市初の幼保一体施設「丹後こども園」完成 **7**
- 「京丹後市白書」初発行

オープンしました。「ものづくり産業」の一層の発展をめざし、次世代の産業振興や人材育成の推進、地場ものづくり産業振興のためのきめ細かなサポートを行い、中小企業のための総合的支援を推進することとなりました。

また、12月には緊急経済対策に着手。厳しい地域経済及び雇用情勢の中、市民の皆さんの仕事や生活を総力挙げて支えることを最優先に、雇用の維持、雇用機会の提供などに取り組みました。

7 市内初の幼保一体施設「丹後こども園」完成

市内で初となる幼保一体施設「丹後保育所・丹後幼稚園」が完成し、竣工式を行いました。平成18年に間人地区で発生した大規模土砂災害の後、間人保育所が移転せざるを得ないことになり、新しい保育所の建設が必要となったことに合わせ、平成18年に策定した「保育所再編等推進計画」に基づき、間人保育所と豊栄保育所の統合保育所として、また幼稚園を併設した施設として整備しました。

9 犯罪のない安全で安心なまちづくり条例施行

平成21年4月、地域社会における市民・事業者・ボランティア団体による、犯罪防止のための自主的な活動の推進や犯罪の防止に配慮した環境整備を、市と市民の皆さんが連携・協力の下に行う「犯罪のない安全で安心なまちづくり条例」を施行しました。

10 FMたんご開局

14 京丹後市ブロードバンドネットワークサービス開始

15 ACTV京丹後局（ケーブルTV）開局

屋内、屋外、自動車内など場所を問わず聴くことができるラジオの特長を活かしたきめ細かな地域情報や防災情報を提供するため、平成21年6月、コミュニティFM局「FMたんご」が誕生。地域に根ざした新たな情報発信拠点として、活動しています。また、都市部と比べ情報インフラ

整備が遅れている現状を解消するため、インターネット環境の整備を行い、平成21年12月、ブロードバンドネットワークサービスを開始しました。さらに、ブロードバンドネットワークを利用し、京丹後市内のイベントやお祭り、市役所からのお知らせや議会中継など地域の話題が豊富な自主放送を行う「ケーブルテレビ放送（ACTV）」を開始しました。

12 丹後地区森林組合発足

13 京丹後市女性連絡協議会発足

平成21年9月、丹後地区森林組合と網野町森林組合が合併し、「丹後地区森林組合」が誕生。経営基盤の拡充整備や組織体制の強化により、事業の拡大・経営の効率化が図られ、地域林業の中核的担い手としての役割を担うことになりました。

また、人の和とつながりを大切にし、いきいきと女性が輝き続けられるよう、女性団体相互の連絡協調を図ることや、女性の地位向上と福祉の増進を目的として、平成21年10月、「京丹後市女性連絡協議会」が発足しました。

平成21年度

- 4月・「京丹後市都市公園八丁浜シーサイドパーク」完成
- 市立弥栄病院で「もの忘れ外来」開設、病床を48床削減し200床に
- 京都府初、議員提案による京丹後市観光立市推進条例施行 **8**
- 「犯罪のない安全で安心なまちづくり条例」施行 **9**
- 5月・トリアル農地・水稲有機栽培実証事業スタート
- 6月・FMたんご開局 **10**
- 子育て応援ハンドブック「キッズナビ」発行
- うみかぜ風力エネルギー普及モデル事業「新エネ百選」選定
- 木村次郎右衛門さん（112歳）男性日本最長寿に
- 京丹後市観光振興計画策定 **11**
- 8月・「避難行動要支援者登録制度」新設
- 「新規就農相談窓口」新設
- 広域連合「京都府地方税機構」スタート
- 全国高等学校総合体育大会カヌー競技を開催
- 遊漁船「とび丸タクシー」出港
- 9月・森林組合が合併し「丹後地区森林組合」発足 **12**
- 10月・京丹後市エコエネルギーセンター稼働
- 「京丹後市女性連絡協議会」発足 **13**
- 11月・市制50周年記念式典開催
- 野村克也さんを名誉市民に
- 市の花・木・歌を制定
- 「百歳ハンザイ!!」推進市町村連絡協議会設立
- 12月・京丹後市ブロードバンドネットワークサービス開始 **14**
- ACTV京丹後局（ケーブルテレビ）開局 **15**
- 「京丹後市総合計画後期基本計画」第2次
- 京丹後市行政改革大綱「策定
- 1月・「シルクのまちづくり市町村協議会」設立
- 3月・京丹後市環境基本計画策定
- 京丹後市総合文化祭初開催
- 北丹地方駅伝競走大会初開催
- 竹野小学校閉校



世界ジオパーク 認定や長寿世界一など 個性と魅力が花開く

- ① 京たんごぼたん・もみじ比治の里完成
- ⑪ 京丹後液肥利用者協議会設立
- ⑫ 液肥利用農産物ブランド名「環のちから」決定

有害鳥獣捕獲後の処理負担の軽減や、新たな地域産業の創出を目的に、イノシシ・シカ肉を処理する「京たんごぼたん・もみじ比治の里」が平成22年5月、オープンしました。この施設で処理された肉は、直売所や観光施設で販売されるとともに、市内の飲食店でジビエ料理として振る舞われています。

また、バイオマス発電施設「京丹後市エコエネルギーセンター」で生成された液体肥料(液肥)の平成23年度利用量は、53ヘクタール・1844トン(26年度は152ヘクタール・5250トン)となりました。液肥の利用促進やブランド化に向けた仕組みづくりを進めるため、市内農家31戸で「液肥利用者協議会」を設立。液肥を使った農産物のブランド名を「環のちから」として、販売促進する取り組みが始まりました。

② 山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに

「山陰海岸ジオパーク」が、ベリ

シャのレスボス島で開催された「ヨーロッパジオパーク会議」で最終審査が行われ、ついに「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認定されました。平成19年に、エリア内の3府県3市3町などが「山陰海岸ジオパーク推進協議会」を設立してから3年。世界認定に向けた地道な取り組みが実を結びました。今後の観光振興に大いに期待されています。

③ 森本工業団地完成 ⑤ 鳥取豊岡宮津自動車道宮津与謝道路開通

市内で6番目(7.2ヘクタールで

平成22年度

- 4月・ドクターヘリ日本海側初運航開始
- 市立久美浜病院で障害者等歯科診療開始
- 「京丹後市消費生活センター」開設
- 「京丹後市・防犯の日」(毎月15日)の取り組み開始
- 京丹後製茶工場完成
- 第2次京丹後市行財政改革推進計画取り組み開始
- 5月・京たんごぼたん・もみじ比治の里完成①
- 上限2000円バス利用者100万人突破
- 久美浜遊覧船運航開始
- 6月・市内全域が「とぶろく特区」認定
- ICT(情報通信技術)基盤整備及び利活用推進で、市が近畿総合通信局長表彰受賞
- 7月・ジオパークから考えるまちづくりフォーラム開催
- 9月・京丹後市運転免許証自主返納支援スタート
- 10月・山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに認定②
- 京丹後市営バス運行業務に関する条例施行
- 11月・京丹後市学校施設耐震化計画策定
- 森本工業団地完成③
- 12月・京丹後市学校再配置基本計画策定④
- 京丹後市農産物流転戦略会議発足
- 1月・生こみ資源化モデル実証事業開始
- 記録的大雪峰山町で最大110cmの積雪(昭和56年以降最大)
- 2月・フード・アクション・ニッポンアワード2010(同アワード実行委員会主催、農林水産省共催)の製造・流通・システム部門で「優秀賞」受賞
- 3月・鳥取豊岡宮津自動車道宮津与謝道路開通⑤
- 京丹後市蒲井シーサイドラインガルテン完成
- 保育所再編計画を策定。5年間で27保育所を16に再編⑥
- 「丹後ものづくり企業ナビ」オープン
- 東日本大震災発生、発生から約5時間後に京丹後市消防職員が現地に向け出発
- 峰山庁舎に太陽光発電設備導入

市内最大規模）となる森本工業団地の造成工事が完了し、竣工しました。平成28年度の完成が見込まれる鳥取豊岡宮津自動車道・大宮ICに隣接しています。また、平成23年3月には、鳥取豊岡宮津自動車道・宮津与謝道路が開通。宮津市から京都市へと続く京都縦貫自動車道とあわせ、利便性の向上や企業立地の促進、観光振興など大きな効果が期待されています。

4 学校再配置基本計画、 6 保育所再編計画を 策定するなど 再編がスタート

平成32年度までに小学校を19校、中学校を6校に再配置する方針を盛り込んだ「学校再配置基本計画」が定例市議会本会議で可決されました。京丹後市では、就学前から義務教育9年間を見通した10年間にわたる一貫教育の必要性と、将来的には町域での一中学校一小学校による小中一貫教育を視野に入れた体制づくりに取り組んでいくことを掲げています。現在の学校の単位と通学区域を基本とした再配置を行うこととし、小学校と中学校の通学区域の整合

性を図ることになりました。また平成18年10月に策定した「京丹後市保育所再編等推進計画」は、保育所の統廃合や幼保一体化による保育所運営を実施してきましたが、着手できていない具体的計画も含めて、京丹後市保育所施設耐震化方針をふまえ、新たに見直しを行いました。

7 「くらし」と「くらし」の 寄り添い支援センター 開所

9 京丹後市男女共同参画 条例施行

「仕事が決まらない」「生活が苦しい」など、さまざまな問題で悩んでおられる方を対象に、ケースワーカーや就労支援員などがパーソナルサポーターとして、ハローワークや社会福祉協議会、民生児童委員、府などと連携し問題の解決をめざす「くらし」と「くらし」の寄り添い支援センターが開所しました。同センターは、平成25年8月に「京丹後市寄り添い支援総合サポートセンター」と名称を変更。大宮庁舎内にあった「市民相談室」、「多重債務相談・支援室」、「消費生活センター」を移設集約し、ワンストップで相

談業務を行います。

また、少子高齢化の進展及び人口減少時代の到来に伴い、社会経済情勢及び地域・環境の変化に対応していくため、男女が互いの違いを理解し合い、互いを尊重しつつ協力しながら双方の視点を活かして個性と能力を十分に発揮することができると社会的実現をめざして、平成23年7月に「京丹後市男女共同参画条例」を施行しました。

8 KTR高齢者200円 レール実証運行開始

10 木村さんに市民栄誉賞

「福寿を健やかに育まれ、市民の尊い模範であり郷土の大いなる誇りである」として、114歳で「男性長寿世界一」としてギネス世界記録認定された木村次郎右衛門さんに、初の市民栄誉賞を授与しました。木村さんは、翌年12月には世界最長寿、男性史上最長寿の記録も打ち立てました。

また、高齢者の乗車によって地域経済の活性化と公共交通を守る取り組み「高齢者片道200円レール」の実証運行を北近畿タンゴ鉄道で実施。前年比2.8倍の乗車数を達成しました。

平成23年度

- 4月・市立久美浜病院、赤木重典新院長就任。奥田聖介前院長が名誉院長に
- ・木村次郎右衛門さん（114）が男性長寿世界一に
- ・「くらし」と「くらし」の寄り添い支援センター開所
- 5月・「みんなでKTRを考える住民参加シンポジウム」開催
- ・市地域再生協議会が「極上のふるさとづくりプロジェクト」スタート
- ・「久美浜一区まちづくり協議会」国土交通大臣表彰受賞
- ・うら嶋船運航開始
- 6月・KTR高齢者200円レール実証運行開始
- ・京丹後市生物多様性を育む農業推進計画策定
- ・地域サポーターを2市民局に配置
- 7月・パーソナルサポーターサービス推進協議会設立
- ・京丹後市男女共同参画条例施行
- ・「自殺のない社会づくり市区町村会」全国123団体で設立
- 9月・男性長寿世界一の木村次郎右衛門さんに市初となる市民栄誉賞贈呈
- 10月・アセアン観光連盟総会、日本での初開催を京丹後で
- ・京丹後まちづくり青年塾スタート
- ・市で初めて全国女性消防操法大会出場
- ・京丹後市立病院連携機構設置
- 11月・着物議会の取り組みスタート
- 12月・「京丹後市液肥利用者協議会」設立
- ・液肥利用農産物ブランド名「環のちから」決定
- 2月・丹後産コシヒカリ特A通算9回目の獲得
- 3月・大宮北保育所完成
- ・鳥津小学校・三津小学校閉校
- ・京丹後市犯罪被害者等支援条例制定
- ・京丹後市健康増進計画中間評価・見直し策定

【10年の道のり】

平成

24-25

年度

誰もが幸福を ますます実感 できるまちへ

- ① 日本一の砂浜海岸づくり
実行推進会議発足
- ④ 再生可能エネルギー
導入促進会議発足

京丹後市の砂浜・海岸の環境保全と市の活性化のための活用を図ることで、一年を通してにぎわう浜辺づくりをめざす「日本一の砂浜海岸づくり実行推進会議」が発足しました。また、平成25年4月には、再生可能エネルギーを活用した地域活性化モデルの発掘・開拓及び事業化を支援する再生可能エネルギー導入促進会議が発足しました。市では、豊かな自然を生かしながら市を活性化する取り組みに力を入れています。

- ② 幸福のまちづくり
研究会設立
- ⑥ 全国52自治体で
幸せリーグ結成

西川太一郎荒川区長（東京都）、市原健二くば市長（茨城県）と中山市長の3人の呼び掛けにより、住民の幸福度に基づいた行政運営をめざす基礎自治体が連携し、「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（幸せリーグ）」を結成。だれもが幸福を実感できるあたたかい地域社会を築くことをうたった「共同アピール宣言」を行いました。また、市では「市民総幸福の最大化」をめざしたまちづくりに向け「幸

- ③ 候補地選定・
受け入れ表明
- ⑧ TPY-2レーダーの

2月、防衛省から、航空自衛隊経ヶ岬分屯基地隣接地を在日米軍TPY-2レーダー（Xバンドレーダー）の追加配備の候補地にしたいとの申し入れがありました。これについて、6カ月以上にわたり防衛省による数多くの説明会、市議会での議論、車力先行事例視察、文書による質疑応答などをはじめとした検証、確認を京都府とともに

福のまちづくり研究会」を創設しており、研究、検討を行っています。

平成24年度

- 4月・中山泰市長3選
- ・島津小学校開校
- ・市立弥栄病院で「訪問リハビリテーション事業所」開設
- 5月・久美浜湾で養殖した丹後トリ貝初出荷
- 6月・コウノトリ「八べえ（雄）」「コウちゃん（雌）」に特別住民票交付
- ・第3次京丹後市議会（定数22人）が発足
- 8月・全日本ラリー選手権「丹後半島ラリー2012」開催
- ・日本一の砂浜海岸づくり実行推進会議発足①
- 9月・全国5会場結び「自殺総合対策全国フォーラム」開催
- ・6市民局に地域にぎわいづくり推進員配置
- ・「地域エネルギーで創る京丹後の元気」シンポジウム開催
- 10月・「幸福のまちづくり研究会」設立②
- ・王位ブータン大シレイ副総長表敬訪問
- ・新経済戦略検討会議発足
- ・木村次郎右衛門さん「男性長寿世界」ギネス再認定
- 11月・京丹後市の学校教育改革構想策定
- ・京丹後市・パナソニック株式会社デバイス社・アマタ株式会社「食の循環」の取り組み第9回エコプロダクツ大賞優秀賞受賞
- 12月・木村次郎右衛門さん、長寿世界「男性史上最長寿」に
- ・「環境首都創造ネットワーク」に加盟
- 1月・京丹後市暴力団排除条例施行、市と京丹後警察署が協定
- ・京丹後市教育支援センター「まわら」開設
- 2月・宇川地区、Xバンドレーダーの配備候補地に③
- 3月・大宮第二小学校、大宮第三小学校、神野小学校、田村小学校、湊小学校、久美浜中学校、高龍中学校が閉校

行いました。その結果、住民の皆さんの安全や安心の確保が確実に行われるという前提の上で、政府の要請を受け止めるべきと判断し、山田府知事とともに9月、受け入れを表明しました。

5 山陰縦貫・超高速鉄道の整備促進をめざす市町村会議発足

山陰から北陸、京都、大阪などの京阪神を直接に結ぶ、リニア方式を含めた新幹線の新たな建設に着手するとともに、山陰圏域の将来の地域力や国力の本格的な発展をめざす取り組みを本市が中心となって呼びかけ、圏域50自治体でスタートしました。広域的・国民的運動として展開し、各種要望啓発及び必要な調査研究等を行います。

7 丹後建国1300年記念事業キックオフ

9 松本重太郎翁没後100年記念シンポジウム開催

14 古代米を伊勢神宮に奉納

丹後建国1300年の節目を記念し、丹後王国など丹後の原点に立ち帰って温め直し、丹後地域の活性化の契機とするようさまざまな取り組みを実施しました。また、松本重太郎翁没後100年を記念し、松本翁の偉業を偲び、再認識し、次代へつなげていくために松本重太郎100年プロジェクト実行委員会が主催、本市が共催してシンポジウムを開催しました。

さらに、日本の稲作発祥の地として言い伝えられている「月の輪田」で収穫された古代米を二箇区月の輪田保存会が伊勢神宮外宮に奉納するなど、歴史的にも意義深い事業が本年より再開されました。

10 クリエイトショップ「くりくり」オープン

京丹後市内の障害者事業所で製品を販売される法人の皆さんにより「クリエイトショップくりくり」が、市内の中心的商業施設内にオープン。くりくりは、障害のある方がつくった製品販売の場ですが、「個性的で魅力ある商品づくり」をめざして、地域の皆さんとともに歩みを進めています。

11 商工業総合振興条例施行 12 京丹後市新経済戦略プロジェクト100施行

本市企業の経営安定・成長発展への支援、企業立地の推進など、商工業の総合的な振興を目的として、その基本事項などを定めた「京丹後市商工業総合振興条例」を施行しました。併せて、京丹後市新経済戦略・プロジェクト100を施行。100の戦略と取り組みで、伝統的な産業基盤の維持発展や自然環境を生かして地域の成長をめざします。

13 「京丹後100寿人生のレシピ」発刊

市では、「健康大長寿」というまちの長所を活かし、長寿を心から深く喜べる長寿社会を実現するため、「生涯現役のまちづくり」を進めています。市内の百寿者37人に聞き取り調査し、よく食べられていた料理30品を紹介する『今に生きる「京丹後」百寿人生のレシピ』を平成25年に発行。平成26年には、百寿者が実践した健康長寿の秘けつを聞き集めた『健康長寿の秘けつ集』を発行しました。

平成25年度

- 4月・再生可能エネルギー導入促進会議発足⁴
- 京丹後市高齢者大学開校
- 大宮南小学校かぶと小学校・久美浜中学校開校
- 6月・「山陰縦貫・超高速鉄道」の整備促進をめざす市町村会議発足⁵
- 全国52自治体で幸せリーグ結成（住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合）⁶
- 第2次京丹後市観光振興計画策定
- 丹後建国1300年記念事業キックオフ記念シンポジウム開催⁷
- 7月・市立弥栄病院で「このケア外来（精神科）」開設
- 丹後農業実践型学舎開設
- 8月・中東国際交流プロジェクトin京丹後初開催
- 京丹後市寄り添い支援総合サポートセンター開設
- 9月・TPY12レーダー（Xバンドレーダー）配備受け入れ表明⁸
- 松本重太郎翁没後100年記念シンポジウム開催⁹
- クリエイトショップ「くりくり」オープン¹⁰
- 京丹後市商工業総合振興条例施行¹¹
- 京丹後市新経済戦略プロジェクト100施行¹²
- 「京たん」スポーツ創刊
- 上限200円バスの取り組みが宮津市・与謝野町・伊根町に拡大
- 京丹後市観光情報センター開設
- 11月・新経済戦略推進会議・新経済戦略推進本部設置、京丹後経済成長戦略新懇話会初開催
- 京丹後フィルムコミッション設立
- 「京丹後」百寿人生のレシピ発刊¹³
- 12月・月の輪田の古代米を伊勢神宮奉納¹⁴
- 2月・花いっぱい運動スタート
- 京丹後市夢まち創り大学開学宣言
- 3月・自治体運営型通販サイト「京丹後sg」オープン
- 郷小学校、網野南小学校、溝谷小学校、鳥取小学校、黒部小学校、野間小学校、川上小学校、海部小学校、佐濃小学校、間人中学校、宇川中学校が閉校

A group of young women, likely high school students, are performing a traditional Japanese dance on a wooden stage. They are wearing colorful kimonos with various patterns, including blue, purple, pink, and green. They are all smiling and have their arms raised in a synchronized pose. The background is dark, and the stage is lit with warm, golden light. The overall atmosphere is festive and celebratory.

市制

10

周年記念式典

市民総参加で「和のちから」がますます輝く、
喜びと笑顔が広がり続けるまちへ



これまでの感謝と今後の展望や決意を述べる中山市長／表彰を受ける自治功労者の皆さん



未来を担う若い力が 式典を創造

新市誕生から10年。これまでの歩みを振り返り、そして未来輝くまちづくりへのステップとする「京丹後市市制10周年記念式典」を平成26年11月1日、京都府丹後文化会館で挙行了しました。式典には、約800人の関係者が出席し、記念すべき節

目を盛大に祝いました。

式は、京丹後の明るい未来を切り拓こうと、市の将来を担う若い中高生の皆さんを中心に結成された「わたしたちの未来をつくる会」と共催で挙行。オープニングでは、市内

の小中学生が丹後小町踊り子隊とともに、ちりめんの着物姿で舞を披露したり、少年少女合唱団が元気な歌声を響かせたりと会場を盛り上げました。さらには、高校生が司会進行を務めるなど、京丹後の未来を担う若い力が息づく式典となりました。

市民の皆さんへの 感謝と未来へのエール

市政の推進にあたり、それぞれの分野で多大な尽力と功労をいただいた皆さんをたたえ、「自治功労者」(12人)、「功労者」(31人・うち社会福祉の推進に貢献いただいた民生児童委員ならびに福祉団体の役員の皆さん17人は、10月18日開催の京

旧峰山町に住んでいた頃の思い出や会社経営に携わることになった経緯、経営者としての考え方を説明する韓昌祐氏



丹後市社会福祉大会にて表彰)、「善行者」(9人、1団体)として表彰を行いました。さらに、式典を共催する「わたしたちの未来をつくる会」が、互いに協力し支え合いながら暮らされ、笑顔あふれる大家族の皆さんから、親子・兄弟・人と人のつながりを大切に想う気持ちを改めて教えていただいたことに感謝の意を込めて、橋本安行さんご家族へ、特別表彰を行いました。

記念講演会では、京丹後市名誉市民の韓昌祐・株式会社マルハン代表取締役会長が、旧峰山町で名曲喫茶「るーちえ」をオープンした頃の思い出や苦労話を交え、人生観や経営哲学を熱く語られました。会社の発展には、「ハングリー精神」「チャレ

ンジ精神」「危機感」「緊張感」の4つの歯車がかみ合うことが重要としたうえで、「商売は人間味が必要」とご自身の経営哲学について語られました。講演後、本講演ならびに毎年行われている「マルハンカップ学童少年野球大会」開催のお礼として、地元少年野球チームに所属する森田瑞君が花束を贈呈。森田くんは、「僕たちが野球をできる環境を整えていただきありがとうございます」と述べ、韓さんは、「峰山高校が甲子園に出てほしい。これからも応援します」とエールを送られました。

元気な歌声を披露した京丹後市少年少女合唱団協議会の皆さん



京丹後市まち・ひと・しごと 創生人口ビジョン

4つの基本視点から人口問題に取り組みます。

(1) 若年層・壮年層を中心とした人口 流入の促進

(ア) 産業の発展・新産業の創出・集積による「しごとづくり」

(イ) テレワーク形態のワークスタイルの発展を促し、本格的な「職場の誘致」による「しごと場の場づくり」

(2) 若年層の人口流出の抑制・歯止め

(3) 若い世代(結婚・出産・子育て世代) の就労・結婚・子育てなどの生活環境 を快適に整備

(4) 高齢者層をはじめとした健康長寿 の一層の推進と市外からの定住化 の促進

上記人口対策の効果が十分発現されれば、
2060年、本市は「7万5千人」程度の
人口が確保されます。



地方創生の 取り組みが 取り組みが 始動

京丹後市は、地域と地球の
未来を豊かに創造する
スマートコミュニティの実現を
めざしています。

京丹後市の人口減少の克服と将来のまちの発展・繁栄のため、平成27年3月2日に京丹後市の「人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。

これは国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、地方公共団体においても長期的なまちづくりの展望を国や都道府県と共有し、まちづくりの推進が求められたことを受け、直ちに策定(全国で第一号の地方版総合戦略策定)したものであり、今後の京丹後市の長期

的な主要指針となるものです。

まちの将来を展望する大切なビジョンであり、国の動向も念頭に1年間かけて慎重に議論を重ね策定した「第2次京丹後市総合計画(計画期間：平成27年～平成36年)」の内容を活かしつつ、さらに住民の代表者、学識経験者、市議会議員等の各界各層からの検討会議での意見等も踏まえ策定したものです。

京阪神・名古屋など大都市圏との交通アクセスが飛躍的に向上する「北近畿新時代」という社会経済的に画期的な時代の転換点をいよいよ本格的に迎えます。

この環境及びテレワーク等の形態を抜本的に進展させるICT環境を最大限に活かすとともに、豊かな自然環境等の恵みを活かし、豊かな環境と伝統産業を中心とした経済・社会の持続的な両立発展という、これからの時代が世界的に求める社会発展のモデルとなるよう取り組みを進めます。

特に、「しごとづくり」「しごと場づくり」等の着実な進展を実現させ、京丹後の「必ずや未来が開けていく」(国の総合戦略)ことにつながるよう住民の皆さんとともに、今後のまちづくりを進めてまいります。



京丹後市まち・ひと・しごと創生総合戦略

[4つの基本目標と19の政策パッケージ]

(1)本市にしごとをつくり、安心して働けるようにする

- (ア)新経済戦略による「新グリーン経済」の構築
- (イ)農林水産業における新規就業者の促進
- (ウ)伝統産業の再生と未来型グリーン産業の創造

(2)本市への新しいひとの流れをつくる

- (ア)四季を通じた滞在型観光の促進とスポーツによる交流推進
- (イ)テレワークによる雇用形態の多様化と地元就労の拡大
- (ウ)京丹後市夢まち創り大学を核とした域学連携の推進

(3)若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (ア)若者の就職支援と後継者の育成
- (イ)結婚・妊娠・出産・子育てまでの一貫した支援
- (ウ)未来を拓く学校教育の充実
- (エ)子育て支援によるワーク・ライフ・バランスの実現

(4)時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

- (ア)社会的孤立者の日中の居場所・社会参加や就労支援の拠点整備
- (イ)公共交通空白地の解消に向けた新たな輸送システムの構築
- (ウ)生涯現役で活躍する健康長寿社会の形成
- (エ)再生可能エネルギーの地域全面展開と地産地消
- (オ)都市機能構想による軸・ゾーン・拠点の形成
- (カ)空き家対策と既存ストックのマネジメント強化
- (キ)広域連携による経済の活性化
- (ク)地域ぐるみによる消防・防災体制の充実
- (ケ)ふるさとづくりの推進

地域再生計画の主な柱

新シルク産業の創造

構造改革特区及び地方創生特区の指定を目指す

- 京都工芸繊維大学、信州大学と連携しながら養蚕システムを構築・展開。
- スパイダーシルクを活用し、高機能性シルクを使った新衣料や健康産業、医療産業などの新産業分野への展開。
- 地方創生特区などの指定をめざした上で、農地確保や桑栽培、シルク関連製品・商品の製造・販売までの産業集積化の推進。
- 2020年東京オリンピックを視野に入れた、「和装」をはじめすそ野の広い新たな絹・シルク産業と文化の創造・発信に取り組みジャパンブランドを育成。

地域協働大学の法人制度の創設

通達の発令について文部科学省と協議し成案を得る

- 地方創生特区などの指定をめざした上で、共通単位化など一定の条件の設定等
- 京丹後夢まち創り大学の法人化で地域振興等の恒常的な協働活動の推進
- 学生確保のためシャトルバス運行、住居(シェアハウス等)の確保 等

新公共交通体系の構築

通達の発令について国土交通省と協議し成案を得る

- EVタクシーによる買い物代行、見守り代行の新たなサービスの開始
- 「ヒト」だけでなく「モノ+サービス」の輸送実施
- ICTを活用した公共交通ネットワーク化 等

京丹後市が国の第1号認定に



平成26年11月22日、政府の地方創生の理念等を定めた「まち・ひと・しごと創生法案」と、活性化に取り組む地方自治体を国が一体的に支援する「地域再生法の一部を改正する法律案」の地方創生関連2法案が、可決・成立しました。これを受け、既に京丹後市は国の地域活性化モデルの選定(全国で33団体)を平成26年5月に受けていたことを弾みとし、この度、地方創生も含めた第30回地域再生計画の認定申請を行ったところ、国の第1号認定(全国で20団体)を受けることが決定し、平成27年1月22日に総理大臣官邸(東京都)にて、安倍晋三内閣総理大臣から中山泰京丹後市長に認定書の授与が行われました。今後、国の地方創生のモデル事業として、積極的な施策展開に向けた国のさまざまな支援をいただきながら、行政課題の解決やまちづくりの発展にさらなる大きな弾みが付くことになりました。なお、認定書授与式に先立ち、石破茂地方創生担当大臣と20の認定団体の首長との意見交換会も開催され、会津若松市(福島県)の室井照平市長と京丹後市の中山泰市長が代表し、地方創生に向けた「総合戦略」の構想等の事例発表を行いました。



みんなが元気で くらせるまちに

みんなが元気にくらすために私が出来る事は、みんなに笑顔であいさつをしたり、まちをきれいにしたりすることです。地域の人達からもあいさつをたくさんもらえるので、がんばって元気な街にしていきたいです。

(峰山小学校6年 野々垣朱音)



自然いっぱい 笑顔あふれるまち

京丹後市は、海や山、自然にめぐまれた自然がいっぱいのまちです。これからは、笑顔あふれる京丹後市になってほしいです。京丹後市のみんなが笑顔になれるよう、あいさつの声、一つ一つの会話を大切にしていきたいと思います。

(網野南小学校6年 品川愛斗)

みんなが幸せに 暮らせるまち

京丹後市の魅力と言えば、やっぱり空気がきれいで、自然が豊かなところだと思います。次世代を担う私たちがこの美しい自然を10年先も20年先も100年先も大切に守り続けていきたいです。また、小さな子どもからお年寄りまでが安心・安全で暮らしやすいまちであってほしいです。

(大宮中学校3年 奥田美空)



さらなる10年、100年後へと、
限りない未来へと歩み続けるまちへ
未来を担う子どもたちの、京丹後市へのメッセージ。

多くの人が きてくれるまちに

京丹後市にはきれいな海があり、山陰海岸ジオパークにも指定されています。名産品が多く、蟹なども遠くからお客さんが食べにきてくれます。今後、さらに多くの人がきてくれるといいなと思います。僕も京丹後市に貢献できるようになりたいです！

(弥栄中学校3年 辻麻人)



私のふるさと 京丹後

私は小学5年生の時フィリピンのマニラから京丹後市に移り住みました。丹後に来て生まれて初めて海も見て、初めて間人で泳いだ時は青い海と青い空で完璧な組み合わせだと思いました。優しい人と自然いっぱいの京丹後は何にも代えられない大切な街です。この街をこれからも大切にしていきたいです。

(峰山中学校3年 山中パトリシアクラリス)



京丹後市の魅力は、 四季の豊かなこと

春 広々とした田んぼに小さな苗が植えられます。
夏 海では、海水浴だけでなく、魚や貝もとって遊べます。
秋 周りの山々が赤や黄色に染まります。
冬 丹後でとれた豊富な野菜が食卓を彩ります。
これからも自然を大切にしつつ、活気あふれる町になってほしいです。

(大宮第一小学校6年 高橋昌義)





豊かな優しいまち

ぼくは、京丹後市が自然の豊かな優しいまちになってほしいと思います。そのために、ごみをなるべく少なくして、木を植えたらいいと思います。そして、京丹後市には、お年寄りが多いのでみんなが思いやり、優しいまちにしたいと思います。

(弥栄小学校6年 新谷凌馬)

京丹後をもっと 活性化させたい

京丹後には良いところがたくさんあるので、世界中の人が見ているインターネットなどでPRをどんどんしようと思う。将来、観光スポットがたくさん増え、京丹後が観光客に喜んでもらえるところであってほしい。

(橘中学校3年 吉岡百々実)



美しい自然を未来へ

私達の学校で「花いっぱい運動」を行いました。この取組を通じて、自然に触れ、守っていききたいと改めて感じました。未来の京丹後市がさらに美しくなるように、自分の手で美しくしたいです。

(網野中学校3年 川浪菜々穂)



未来へつなぐ

和の

落ち着いて、安心して 暮らせるまちに

犯罪など危険性がなく、自然がとてもきれいなまちにするために、僕はきれいな自然を紹介したり、ゴミをなくす声かけをしていきたい。また、まちの人たちが優しく住みやすいまちにするために、地域の人にあいさつをし、地域を元気にしたい。

(久美浜中学校3年 杉本岳大)



美しい京丹後市で あってほしい

京丹後市10周年、今までよりも環境の事を考えていきたい。いつまでも海を守り、自然を守り、いつまでもきれいな京丹後市、笑顔あふれる京丹後市であってほしい。みんなで美しい京丹後市を保ってきたい。

(丹後中学校1年 山中美恵)



カキだなを 守っていききたい

かぶと山から見える景色に、カキだながあります。そのカキだなでは、焼いても身が縮まないカキを育てています。そのカキはミルクのようなきれいな色をしていて、真じゅみたいです。ぼくもこの仕事に入り、守っていききたいです。

(かぶと山小学校6年 藤本優也)



漁師がいる町に

ぼくは、漁師になりたい。サザエなどを捕って競りに出して売ります。ヤスで魚をついて家に持って帰って、お母さんたちに食べさせてあげます。盆や正月には、魚を捕ってきてみんなに食べてもらいます。ぼくは海が大好きだ。ぼくは海と仲間になりたい。

(間人小学校6年 下岡真也)





発行：京丹後市役所

〒627-8567 京都府京丹後市峰山町杉谷889番地

TEL 0772-69-0001(代表)

<http://www.city.kyotango.lg.jp/>